

田無試験地の蝶類相

宮 下 直*

Butterflies in the Tokyo University Forest Experimental
Station at Tanashi

Tadashi MIYASHITA*

はじめに

東京大学農学部附属田無試験地は東京都区部の西に隣接する東京都田無市にあり、周囲を住宅地や農地に囲まれた約 9.1 ha の樹林および草地からなる。著者は 1988 年から 1993 年にかけてクモ類調査のため当地を頻繁に訪れたが、その際に生息していた蝶類も随時記録してきた。その結果、これまでに計 42 種が確認された。本報ではそれらのリストについて記すとともに、貴重と思われる数種については簡単なコメントを加える。

「凡例」

普通にみられるもの	◎
やや普通にみられるもの	○
稀なもの	△
1 回のみ記録	+

目 録

アゲハチョウ科	Papilionidae	
ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>	◎
ジャコウアゲハ	<i>Atrophaneura alcinous</i>	○
アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i>	◎
キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	△
アゲハチョウ	<i>P. xuthus</i>	◎

* 東京大学農学部森林動物学教室

Laboratory of Forest Zoology, Faculty of Agriculture, The University of Tokyo.

クロアゲハ	<i>P. protenor</i>	◎
カラスアゲハ	<i>P. bianor</i>	△
シロチョウ科	Pieridae	
キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	○
モンキチョウ	<i>Colias erate</i>	◎
ツマキチョウ	<i>Anthocaris scolymus</i>	○
モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>	◎
スズグロシロチョウ	<i>P. melete</i>	◎
シジミチョウ科	Lycaenidae	
ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>	○
ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia</i>	△
トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>	△
ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada</i>	◎
ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>	◎
ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	○
ヤマトシジミ	<i>Pseudozizeeria maha</i>	◎
ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>	◎
ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>	◎
ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>	○
テングチョウ科	Libytheidae	
テングチョウ	<i>Libythea celtis</i>	+
タテハチョウ科	Nymphalidae	
ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>	△
コムスジ	<i>Neptis sappho</i>	△
キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>	◎
ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	◎
ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>	○
アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>	△
ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i>	○
ジャノメチョウ科	Satyridae	
ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	◎
ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>	○
ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	◎

サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	◎
ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>	◎
クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima</i>	+
セセリチョウ科	Hesperiidae	
ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	◎
ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	+
コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>	○
キマダラセセリ	<i>Potanthus flavum</i>	○
チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>	○
イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>	◎

注目すべき種

ホソオチョウ

本種は元来朝鮮半島などに分布する蝶で、日本には20年ほど前に人為的に移入された帰化種である。一時は本郷の東大医学部前の植え込みに多数発生していたが、現在は絶滅してみられない。田無試験地では当初、第1苗畑東隣の草地が発生源であったが、現在では試験地の北東部を中心に広く生息しており、個体数も増加傾向にある。食草はウマノスズクサで、幼虫も多数見られる。田無では年に5回程度発生しているが、原産地の韓国では年2世代らしい(福田ら1982)。国内の他の生息地では絶滅した場所が多く、当試験地は本種の貴重な生息地となっている。

ミズイロオナガシジミ

本種の食樹はクヌギやコナラであり、武蔵野の雑木林に以前は普通にみられたようだが、宅地化が進んだ現在の都市部では稀種に属すると思われる。

ジャノメチョウ

個体数は多くないが毎年確実に発生している。以前は港区の自然教育園(1950年代に絶滅、守山1988)や世田谷区(1970年代後半に絶滅、福田1988)にも生息していたようだ。都市部ではきわめて珍しく、田無試験地に生息している蝶では最も貴重と思われる。

クロコノマチョウ

1990年8月に1個体目撃した。南方系の種で静岡県あたりまでは定着しているらしい。田無試験地での記録は周辺地域で一時的に発生した個体によるものと思われる。

おわりに

田無試験地にはクヌギ、コナラ、エノキなどの雑木林が残されている一方、人の出入りの少ないススキやアズマネザサ、蔓性植物が繁茂する日当りのよい草地が広く存在する。ミズイロオナガシジミやムラサキシジミ、ゴマダラチョウなどは上記の「雑木」を食樹とし、ジャノメチョウ、ギンイチモンジセセリ、キマダラセセリなどはススキなどのイネ科草本を食草としている。またルリタテハやサトキマダラヒカゲのように幼虫期は草本を食し、成虫になるとクヌギの樹液を吸う種もいる。10 ha 足らずの林地でこれだけの種が記録できたのも豊富な林と草地が長期間にわたって保存されてきたからに違いない。

引用文献

- 福田晴夫ら(1982): 原色日本蝶類生態図鑑 (I), 保育社.
———(1988): 都市の昆虫誌, 長谷川 仁編, 思索社.
守山 弘(1988): 自然を守るとはどういうことか, 人間選書.